



道の駅 再整備への思いは

近藤 武 議員

さらに付加価値を高める施設整備が必要
市長

問 道の駅「立田ふれあいの里」の利用者数の推移と売り上げ状況は。

答 平成20年度の約29万人をピークに減少傾向が続いている。売り上げも同様に、約4億3200万円から減少傾向が続いている。

問 再整備に至った経緯は。

答 オープンから15年近く経過し、施設の老朽化が進んでいる。産直施設

や土産物コーナー、駐車場及び駐輪場が狭いこと、トイレの洋式化が進んでいないこと、といったハード面の課題に対応するだけでなく、本市をはじめ、この海部地域の観光拠点として、周辺の観光資源と連携し、情報発信をより一層行うため。

問 都市公園を新たに整備する理由は。

答 一年を通して、本市の魅力を見て、触れて、



▲道の駅周辺整備事業 完成予想図

感じてもらい、一日中楽しめる公園を整備し、既存の道の駅と一体的に本市をPRできる重要な観光拠点として、この地域の活性化につなげていきたい。

問 この事業全体でいくらかかるのか。

答 約35億8千万円。

問 市の実質負担額は。

答 財政支援制度を活用し、合わせて約18億千万円を見込んでいます。

問 事業完了後の維持管理は。

答 民間企業のノウハウを活用し、新たな管理運営体制の導入に向けて、検討を進めている。

問 道の駅「再整備への市長の思いは。

答 立地的にも愛知県の西の玄関であり、自然や歴史遺産など、ほかの自治体にはない観光資源が

この地域にはある。この状況を生かしながら、今後多くの方に知ってもらうには、静観するばかりではいけない。時代に即した視点を取り入れながらアップデートしていく必要がある。

再来者や多くの方に知ってもらうためにも、さらに付加価値を高める施設整備が必要であり、市民にも市の魅力を改めて感じてもらえる施設を目指したい。